

★★★ <第27回知的財産翻訳検定試験【第13回英文和訳】> ★★★
《 1 級課題 -電気・電子工学- 》

【問 1】

(請求項 1)

車両であって、

電池と、

コントローラであって、

前記車両の負荷が前記電池から電力を消費していることを検出することに応じて、エンジン始動が開始される充電状態 (SOC) 閾値を第 1 の所定の値まで減少させることと、

前記負荷がもはや前記電池から電力を消費していないことを検出することに応じて、前記 SOC 閾値を増加させることと、

SOC が前記閾値を下回っていることに応じて、エンジン始動を開始することと、を行うように構成されているコントローラと、を含む車両。

(請求項 6)

コントローラにより、

エンジン始動を開始する充電状態 (SOC) 閾値を減少させることを、エコノミーモードに対するリクエストが存在する場合を除いて、車両の負荷が車両電池から電力を消費していることと、ユーザ入力の前記減少を許可していることとを検出することに応じて行うことと、

その後前記負荷がないことを検出することに応じて、前記 SOC 閾値を増加させることと、

SOC が前記 SOC 閾値を下回っていることに応じて、エンジン始動を開始することと、を含む方法。

【問 2】

(A) その代わりに、切刃の鋭さの不規則性のため、フラップの切断中に角膜を安定させるための不完全な圧平のため、及びフラップが形成されるときの間質組織と切刃の間の抵抗のために、結果として生じる切開は、一般的には、いくつかの表面の不規則性を含む。

(B) これまでは、眼科手術中にエキシマレーザの閉ループ制御が使用されたときはいつも、眼の全収差に対する表面不規則性 (起伏) の寄与は通常無視されていた。結果として、以前の閉ループ制御システムでは、実際の組織光切

除の程度を所望の光切除の所定量と比較することによって制御エラー信号を生成することが行われてきた。これは、波面分析を使用して、間質組織によって生成される実際の歪んだ波面（起伏の寄与を含む）を特定し、その後、その歪んだ波面を所望の波面と比較してエラー信号を生成することによって行われてきた。しかしながら、所望の波面は、通常、現場外で決定され、診断検査の結果である。したがって、それはあらかじめ決められており、手順が実行されるべき時点で、その後にフラップが作成される際に表面起伏（不規則性）によって引き続いて導入される収差を説明していない。ここでの結果は、露出した表面の起伏は、所望の組織除去と共に除去されるという事である。

【問3】

(X) 各画像スライス404（図8）は、画像スライス404のバンド幅410を規定する対向する側縁416を有し得る。印刷ヘッド300は、少なくとも一つの側縁416に沿った画像勾配バンド418を有する画像スライス404を印刷できるように構成され得る。図示された例では、画像スライス404は、画像勾配バンド418によって両側で境界付けられた内側部分414を含むことができる。画像勾配バンド418は、画像スライス404の色の強度が、画像勾配バンド418の内側境界420から側端416までの、ラスタリングパス350の方向に対して横方向354に沿って変化する（例えば、減少する）帯として記述され得る。

(Y) 有利な事には、重なり合うラスタリングパス350は、隣接する画像スライス404間の名目上の間隔からの偏差を表すギャップおよび重なりを可能にし、名目上の画像スライス間隔からのそのような偏差が視覚的に知覚可能である可能性を低減する。これに関して、隣接する画像スライス404の側縁416上の画像勾配バンド418は、互いに重なり合うと、ラスタリングパス350に沿ったロボット202による不完全なトラッキングがあったとしても認識できない画像エッジを生じる。

(Z) このような画像勾配端は、画像スライス404を、新たに塗布される画像400を囲う表面102領域の既存の色及びデザインの色及びデザインとを混ぜり合わせる（例えばフェザリングする）手段を提供することができる。例えば、システムは、複合スキンパネル（図示せず）及び／又はその下にある構造の一部の除去及び／又は交換などの再加工を実行した可能性のある表面の部分に新たに塗布される画像400を塗布することができる。新たに塗布された画像スライス404の画像勾配端は、周囲表面102に混合するための手段

を提供することができる。また、画像勾配端は、新たな画像スライス406上で、新たな画像スライス406のラスタリングパス350の終端に配置された別の画像400の画像勾配端部との混ぜ合わせを容易にすることができる。